

第1回検討会議での議論のポイント

令和2年10月

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）



※赤字部分：特に第2回で対応している観点

| 第1回検討会議での主なご意見 | 対応の方向性 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 「応用基礎」というのは、<u>「リテラシーレベル」のオプション部分と、データサイエンティスト協会の「スキルチェックリスト」における星1つ（見習いレベル）をカバーすることになる</u>のではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「応用基礎」のスコープの合意形成に向け、「応用基礎」において<u>どのようなAIに関する教育内容を、どのような形で盛り込むべきか</u>、具体的に検討。 ➤ その際、「モデルカリキュラム（応用基礎レベル）の全国展開に関する特別委員会」と本論点を共有し、具体化を図る。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 「応用基礎」では、数理・データサイエンスに加え、<u>AIについての教育も十分に行うことが重要</u>ではないか。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 特に他分野融合の場合、教える人材及び対象とするデータを、どのように全国での展開を見据えて確保していくかが重要ではないか。（大学間連携・産学連携の観点等） | <ul style="list-style-type: none"> ➤ まずは「応用基礎」のスコープについて合意形成し、その上で「応用基礎」教育プログラムの実践方法等について検討。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 自らの専門分野における課題や社会課題等を発見してそれを解決するスキルの育成や、学生の興味・関心を引きモチベーションを維持する仕組み等が重要ではないか。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● <u>産業界での取組や産業界において求められるスキル等から、大学教育に求められる内容</u>を検討してはどうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>企業関係者からのプレゼン等を実施</u>し、求められるレベル感を検討。 |